

# 四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

## 談話室 Vol.67

### 四万十川の水は命と癒しの水

高知県 四万十市長

さわだ いそろく  
澤田 五十六



東京で今、安眠ホテルというものが流行っているそうです。多くのストレスで眠りが難しくなっている人達に、安らかな眠りが得られるホテルが人気だということです。安眠の鍵は夜中バックに流れているせせらぎの音にあります。

四万十川の魅力の一つが実はこのせせらぎにあるのです。四万十川本流の屋形舟にのるとわかりますが、そのゆったりとした流れに身をまかせて30分、1時間たってみると、身も心も癒されているのを感じるのです。四万十市には、枝分かれした3本の一級河川が流れこんでいます。四万十川の本川、後川、中筋川の三つです。屋形舟は本川に浮かんでいます。三本の河川の勾配は後川が1500分の1、四万十川が2200分の1、中筋川が8000分の1です。つまり後川は15mで1cm、四万十川本川は22mで1cm、中筋川は80mで1cmの傾きで流れている、ということです。だから後川のせせらぎは、流れが一寸速すぎてせかせかした感じが残ります。逆に中筋川はゆったりしすぎて余り流れている感じがしません。これに対して四万十川本川のせせらぎは、両川に比べて、速すぎもせず、遅すぎもせず、川の流れに身をまかせ、兩岸の緑を見、鳥の声を聞いていると、身も心も癒される感じとなるのです。

四万十川は全長196km、急峻な山肌を削って、片方に岩肌、片方に河原を作りながら、思う存分蛇行を繰り返すので、瀬や淵を多く抱えています。また下流部のゆるやかな流れが広い汽水域（海水と淡水の混ざり合った所）を作り出します。これらのことから四万十川の特徴が生まれます。

①第一に、魚は瀬で運動し、淵で休めます。だから瀬や淵の多い四万十川には実に沢山の生き物が住んでいます。魚だけで180種をこえます。



蛇行して流れる四万十川と西土佐岩間の沈下橋

また、鮎、鰻、ツガニ、ゴリ、手長エビ、青ノリ、青サノリなどで生計をたてる専門の川漁師がいるのは、日本広しといえども四万十川だけなのです。

②次に四万十川は日本一の清流といわれますが、特に冬から春にかけての川の透明度には、ここに来たすべての人が感嘆の声をあげます。しかし、日本一といわれる所以は、その清流と共に、昔の川がもっていた川らしい川原風景が数限りなく残されているからなのです。ほとんどの川は防災のために、川の蛇行がゆるめられ、人工の護岸が施されました。四万十川は山合いを蛇行して流れているため、自然の護岸と河原が至る所に残っています。この川を見て心が和むのは、昔ながらの川の風景が人の心に郷愁をよぶのでしょう。③四万十川の三つ目の特色は、河口に広大な汽水域が形成されていることです。恐らくその広さは日本一で、ここに住む魚は150種をこえ、海水の遡上は6kmにも及びます。汽水域は多様な生物の住み家になるだけでなく、鮎や鰻、ツガニや手長エビ、ゴリなどが孵化したり、成長したりするのになくしてはならない所なのです。また、日本での生産量の殆どを占める青ノリや青サノリもここで育ちます。青ノリや青サノリの売上高は鮎や鰻の何十倍にもなります。

このような川は世界にも類がなく、我々は今や世界遺産への登録を目指して動き始めています。また、この川を楽しみ、癒しを求めてくる人達のための街道作りやもてなし、スポーツ、アウトドア、宿泊、飲食、案内などの準備をしています。一度、春光の四万十川の沈下橋（洪水がでると水の中に沈む）に座って満開の菜の花の中を流れる川の流れを楽しんでみて下さい。



最下流にある佐田沈下橋の春の風景